

活動実績報告書

平成29年10月19日

登録番号 20130815

氏名 加藤 俊哉

1. 活動状況

平成28年 4月 ~ 平成29年 3月

・活動の概要

和歌山県有田川町において素材生産量の増大を目的とし、森林組合・事業体と連携した有田川町搬出間伐推進協議会の発足について指導をおこなうとともに協議会による下記取組への支援をおこなった。

1)地区懇談会の開催

搬出による素材生産の実績が少ない有田川町楠本地区において、林道沿いの森林所有者約300名を対象とした作業道作設による搬出間伐を紹介する地区懇談会を実施。町外からの参加者もあり、出席者から森林施業に関する同意を得ることができた。

2)協議会による施業方法、経費の共通化

協議会会員の作業道作設、間伐材搬出施業については、作設方法や搬出方法をマニュアル化し森林所有者へ説明。コストについても経費を統一化した。

3)しみずふるさと祭りへの出展

しみずふるさと祭りに協議会として出展。高性能林業機械のデモ展示をおこなうとともに、搬出間伐についてパネル・ビデオ展示及び施業説明会をおこなった。

4)共同施業団地の設定

有田川町境川地区に322haの施業団地を設定。現地踏査、測量をおこない、林業専用道の作設計画を作成した。

・当該活動を挙げた理由

上記搬出間伐推進協議会ではオブザーバーとして県、町も参加しており、協議会活動を行う際の準備等には、森林組合プランナー、民間事業体のみならず県や町の担当者とともに出席し、連携を持ちながら活動にあたっており、森林総合監理士として地域林業の活性化のため関係者との合意形成を図る役割を果たしている。

・当該活動における、あなたの立場と役割

行政業務として造林補助事業及び森林組合指導を担当しており、補助事業の活用や組合育成の観点からも森林総合監理士として、森林組合プランナーとともに年間の施業、活動計画を検討するとともに、民間事業体、有田川町と各活動での資料作成や準備作業等アドバイスをとおこない合意形成を促した。

・活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

1)施業の集約化・団地化

地区懇談会により施業同意の得られた森林は個別的なものも多く、効率的な施業をおこなうためにも集約化が必要である。今後は地区懇談会に出席しなかった森林所有者に対しても施業の働きかけをおこなうとともに団地の設定による集約的な施業の計画づくりをおこなう。

2)実施事業体の能力向上

施業を実施する協議会メンバーである森林組合では搬出間伐の生産性が他構成事業体に比べ低く、協議会として共通した施業を行うためにも今後の事業体の能力向上は喫緊の課題。

各研修等により作業班員のスキルアップを図ることはもとより、施業の計画性や事務能力の向上等、森林組合の活動全体の進捗管理と振り返りをおこなう。

2. 研修の受講状況

研修名 森林総合監理士フォローアップ(課題解決)研修
平成27年 2月 (実施主体) 林野庁森林技術総合研修所

研修名 森林作業道 作設指導者・監督者研修(森林総合監理士フォローアップ)
平成27年 9月 (実施主体) 林野庁森林技術総合研修所

研修名 森林総合監理士フォローアップ(目標林型と森林施業)研修
平成28年 8月 (実施主体) 林野庁森林技術総合研修所

研修名 集材架線研修(森林総合監理士フォローアップ)
平成29年 6月 (実施主体) 林野庁森林技術総合研修所

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

平成27年 8月
緑の雇用フォレストワーカー(林業作業士)研修
「間伐施業」について講師として研修を実施

平成29年 3月
和歌山県林業普及指導職員実績発表大会において発表
「清水地域での連携による素材生産と安定供給に向けた取り組み」

平成29年 7月
スイス・リース林業教育センター実習生による「森林プランニング講習会」に出席

平成29年 8月
林業普及指導職員近畿ブロックシンポジウムにおいて発表
「再生する森林組合と共に歩む安定供給に向けた素材生産への道」